

【デンマーク】復興ありがとうホストタウン 東松島市の取組

1 「ホストタウン」登録又は「復興ありがとうホストタウン」決定・登録に至るまでの経緯

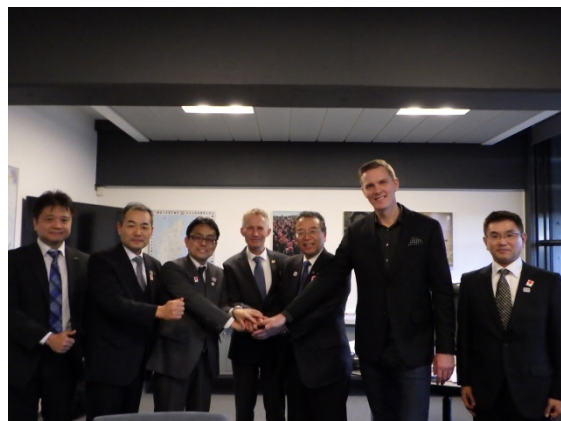
東日本大震災直後に当時駐日デンマーク王国大使であったメルビン大使より直接寄付を頂いたことをきっかけに、その後も多くの御支援を頂き、またデンマーク王国フレデリック皇太子殿下にも2度、当市に足をお運びいただくなど、継続的な支援を頂いておりました。

今回、復興ありがとうホストタウンの登録に際しては、内閣府の御協力を頂き、デンマーク王国大使館への訪問やデンマーク王国の訪問を行いました。

デンマーク王国訪問の際は、フレデリック皇太子殿下への謁見の他、デンマークオリンピック委員会や震災以降多くの支援を頂いた企業を訪問し、これまでの支援への感謝の気持ちを伝えるとともに、東京オリンピックに向けたより一層の支援と継続した交流をお願いしてまいりました。



【平成 23 年度学生交流】



【デンマーク王国オリンピック委員会訪問】

2 交流計画の概要

大会前、大会中、大会後と大きく3段階に分け、大会前には市民への周知や学生交流を行うことで機運を高め、大会中は応援ツアーを企画しデンマークチームを応援し、大会終了後にはデンマークオリンピック選手及び関係者をお招きし、市民との交流を行うとともに、東松島市内復興状況を見ていただく予定としております。

※詳細は別紙資料のとおりです

3 これまでの取組、今後行おうとしている取組

復興ありがとうホストタウンの選定を受けてからは、デンマーク王国の訪問の他、8月に産業交流事業として、食をテーマとしたフォルケホイスコーレ立ち上げ事業の一環で行われたサマースクールに、東松島を代表する産業の海苔漁師を派遣し、養殖についての講義を行って参りました。また、食や自然に関する意見交換を通し、相互理解を深めました。また、市報により毎月デンマーク王国の紹介コーナーを作成し継続的な広報に努めております。

今年度についてはこの他、2月に学生交流としてデンマーク王国から中学生を招き、市内中学生とホームステイや市内産業の共同見学を行い、交流を深める予定にしております。これらをきっかけとして、さらなる交流や市民への周知を図っていくこととしております。



【デンマーク海の視察】



【海苔養殖についての講義】

4 今後の取組への課題、国等への要望

市民への周知について、思ったようには進んでいないと感じられるため、今後の市民向けのイベントを行うなどの、周知につながる取組が必要となります。

しかし、震災復興事業により職員のマンパワーが限られる中、担当部署の職員不足により、ホストタウン事業にのみ力を入れるわけにはいかないことから、事業を行っていく上での人員の確保が課題となっております。

さらに、招待、訪問、どちらを行うにも旅費等の経費がお互いの課題となるのは間違いなく、そういった部分に注意しながら計画し交流を行っていく必要があるため、交流内容に制限、限度が生じると感じております。

大会を基点に多くの交流を実施することとしておりますが、大会終了後にレガシーとして交流が継続されることが考えられます。その際の、財源や補助メニューについては是非ご検討をお願いいたします。

市交流計画の概要



団体名

宮城県 東松島市

相手国・地域

デンマーク王国

2016～
(大会開催まで)

◆市民への周知

- ・市報及び情報配信システム【イート@ボードシステム】を活用し、デンマーク王国の紹介や周知を図る。
- ・夏まつり等の市内のイベントにおいてデンマークコーナーを設置する。

◆ロラン市との学生交流事業

- ⇒震災復興協定締結都市であるデンマーク王国・ロラン市より、中学生を招待し、学生体験をメインとした交流を実施する。



【参考:平成26年度 デンマーク・ロラン市等訪問事業】

2020
(大会中)

- ◆大型バスをチャーターし、大会会場でのデンマーク選手団応援ツアー【バドミントン・ハンドボール】及びパブリックビューイングを実施する。



- ◆東京日比谷公園に設置予定のデンマークパビリオンを活用し、デンマーク王国をPRすると共に東松島市との交流及び復興状況の発信を行う。

2020～
(大会直後～)

- ◆デンマーク選手及び関係者を東松島市に招待し、歓迎レセプションや市内スポーツ団体等とのスポーツ交流及び慰労会を実施する。



- ◆大使や大使館職員及び震災時に寄付を頂いた企業関係者を東松島市夏まつりに招待し、市民との交流を図る。



交流の継続